

〈新型コロナウイルス感染症に関する対応〉

## メッセージポスターの公開と活用について(5)

浄土真宗本願寺派では、新型コロナウイルス感染症に関する対応の環境として、「新型コロナウイルスの感染拡大に伴うすべての人へのメッセージポスター」を作成してきました。

日本では、2020年4月から5月にかけて初めて緊急事態宣言が出されましたが、その最中の5月に「いま 私にできること」を『本願寺新報』に掲載しました。それ以降、毎月公開し、併せてメッセージポスターのデータや解説文などを浄土真宗本願寺派ホームページ（HP）に公開しています。今回は、第7回と第8回の公開分について報告いたします。

### 第7回アンケートを実施

第7回は、『阿弥陀さまのみ手のうち』、『ほっとする場所』を公開しました。

今回のメッセージポスターにつきましても、アンケート調査を実施し、一般の

方の率直な反応を聞いています（2020年11月、インターネット調査会社を利用して実施）。調査内容は、メッセージポ

スター（『阿弥陀さまのみ手のうち』が、

### ●第7回ポスター



・本願寺新報2020年11月1日号掲載  
・2020年10月26日HP公開

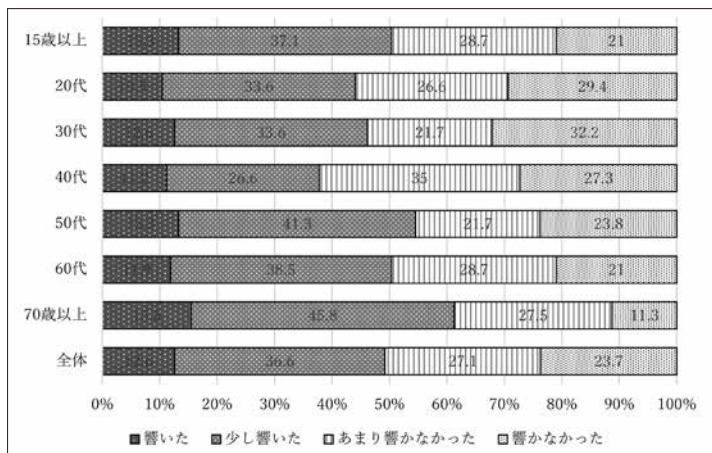


図1 メッセージポスターが心に響いたか《年代別》

一般生活者の心に響いているか、また言葉の意味がわかったかを尋ねています。調査対象は一般生活者1000名、年齢層（15歳以上・20代・30代・40代・50代・60代・70歳以上）及び性別（男・女）が均等になるよう指定して調査しています。

①ポスター全体の印象

メッセージポスターが心に響いたかどうかを聞いたところ、次のような結果となりました（図1は年代別割合を示したものの）。

- ・ 響いた……………12・6%
- ・ 少し響いた……………36・6%
- ・ あまり響かなかった……………27・1%
- ・ 響かなかった……………23・7%

今回は、「響いた」「少し響いた」を合わせると約5割になります。一方で、「響かなかった」「あまり響かなかった」を合わせると、約5割となり、半数の方には響いていない結果となりました。年代別では、70歳以上にもっとも響いており、50代、15歳以上、60代がそれに続きます。

これまでは、30代から60代にあまり響かないという結果が続いてきましたが、今回は50代の数字が改善されています。一方、今回は40代に響かないという結果

となつています。

20代と30代については、「響かなかった」の数字がそれぞれ29・4%、32・2%、そして「あまり響かなかった」が26・6%と21・7%であるのに対して、40代は「響かなかった」は27・3%、そして「あまり響かなかった」が35%と最も高くなっています。40代になかなか響かなかったという見方ができますが、一方で、20代や30代とは異なる傾向を見せていることもうかがえます。「あまり響かなかった」方に響くための改善点が見つければ、40代に関しては、より多くの方に届くメッセージともなります。

②言葉の意味がわかったか

次に、言葉の意味がわかったかどうかを聞いたところ、次のような結果となりました（図2は年代別割合を示したものの）。

- ・ わかった……………15・0%
- ・ 少しわかった……………39・1%
- ・ あまりわからなかった……………27・5%
- ・ わからなかった……………18・4%

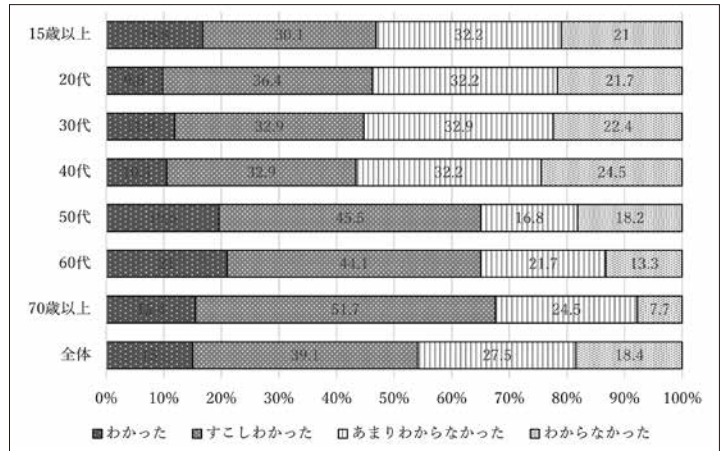


図2 言葉の意味はわかったか《年代別》

「わかった」「少しわかった」を合わせると5割を超える結果となりました。年代別で見ると、70代・60代・50代の数字と、15歳以上・20代・30代・40代の間で顕著な違いが出ています。

①で注目した50代は、「わかった」と

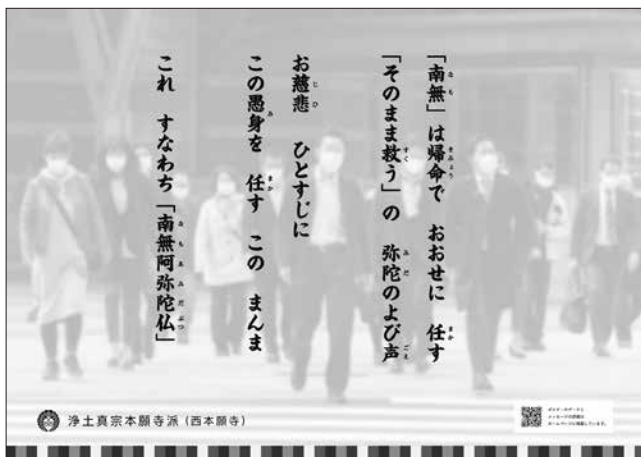
「少しわかった」を足すと65・1%となり、一定程度言葉の意味が伝わっていることがうかがえます。言葉の意味は伝わっているが、なかなか響かないという課題が生じています。一方、40代以下は、「わからなかった」がいずれも2割を超え、「あまりわからなかった」もそれぞれ3割を超えています。「わかった」と答えた方についても20代から40代は1割前後であり、ほとんど伝わっていないという結果でした。50代以上と40代以下を比べると、前者の方が比較のお寺や仏教との関わりが深いとも考えられますが、今回のアンケートだけでは、このような結果になった理由はわからないため、「なぜ伝わらなかったのか」「なにが伝わらなかったのか」を別の方法で調べる必要があります、この点については今後の課題したいと思います。

HPで公開されているメッセージポスターの解説文では、お釈迦さまが見抜かれたおさとの真実を、経典を通して聞かされていないながら、苦しみから逃れるこ

とができない私たちのあり方が示されています。そして、そのような苦しみを悩む私たちに、この上ないおさとの真実を知らせようと「南無阿弥陀仏」となればたつき続けておられるのが阿弥陀さまであることが示されています。伝わる言葉を創出し洗練させるとともに、QRコードによってHPに公開している平易な解説文に上手く誘導するなど、可能性のある方法を見極め活用していくことで、一定程度の理解が深まることが予想されます。それとともに、顕著な年代差が出た要因を今後探っていくこと、そして比較的若い世代の方に、お寺や浄土真宗のみ教えに気軽に接していただける機会を創出し、親しんでいただくための新たな施策が求められます。

## 第8回アンケートを実施

### ●第8回ポスター



・本願寺新報2020年12月1日号掲載  
・2020年11月27日HP公開

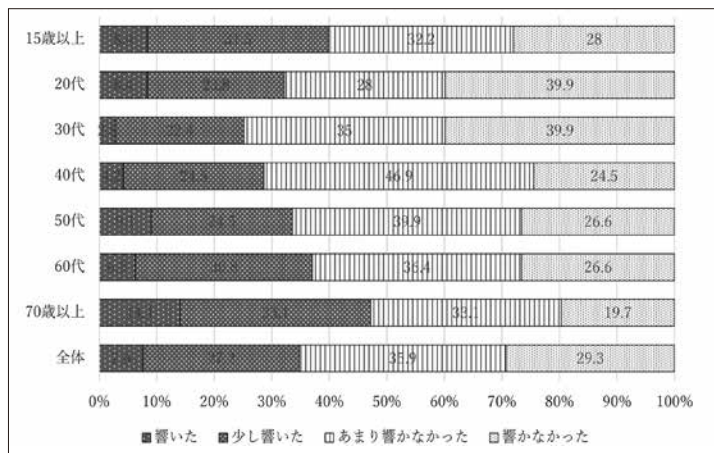


図3 メッセージポスターが心に響いたか《年代別》

第8回は、『南無阿弥陀仏』、『安穩であれ 幸せであれ』、『泣ける場所』の3点を公開いたしました。今回のメッセージポスター（『南無阿弥陀仏』）について、同

様のアンケートを実施し、一般の方の率直な反応を聞いています（2020年12月、インターネット調査会社を利用して実施）。調査対象などは、前回と同様です。

#### ①ポスター全体の印象

メッセージポスターが心に響いたかどうかを聞いたところ、次のような結果となりました（図3は年代別割合を示したものの）。

- ・ 響いた……………7・6%
- ・ 少し響いた……………27・2%
- ・ あまり響かなかった……………35・9%
- ・ 響かなかった……………29・3%

今回は、「響いた」「少し響いた」を合わせても約3割と厳しい結果となりました。

年代別では、70歳以上は合わせて5割弱の方に響いていますが、それ以外の年代では、いずれも4割に届いていません。特に30代と40代は「響いた」が2・8%と4・2%と極端に低いものでした。

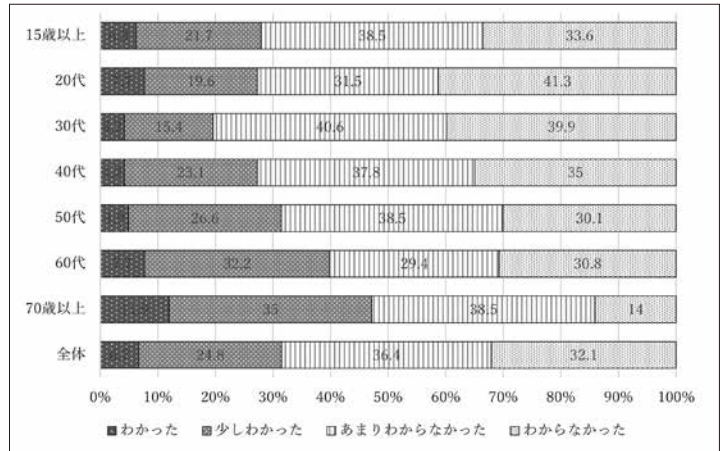


図4 言葉の意味はわかったか《年代別》

また、「響かなかった」は20代と30代が  
いずれも39・9%と他と比べて高い数字  
となっています。

②言葉の意味がわかったか

次に、言葉の意味がわかったかどうか  
を聞いたところ、次のような結果となり

ました(図4は年代別割合を示したもの)。  
 ・ わかった……………6・7%  
 ・ 少しわかった……………24・8%  
 ・ あまりわからなかった……………36・4%  
 ・ わからなかった……………32・1%

「わかった」「少しわかった」を合わせると約3割となり、7割近くの方に意味が伝わっていない結果となりました。

年代別でも低い数字が並んでいます。まず、「わかった」は1割に達しているのが70代のみで、30代と40代がいずれも4・2%、50代が4・9%と極端に低い数字となりました。さらに、「わからなかった」は60代以下でいずれも3割を超え、特に20代が41・3%、30代が39・9%と高い数字となっています。また、グラフの形状を比較するとわかるように、②「言葉の意味がわからない」の数字に応じて、①「響かなかった」の数字が表れていることがうかがえます。

以前も指摘したように、僧侶が思っ

ている以上に、浄土真宗の重要な用語は一般に認知されていません。言葉の意味まで理解している割合がさらに低いことは、真宗教団連合が2018年度と2019年度に実施した「浄土真宗に関する実態把握調査」でわかっています\*。今回のメッセージポスターでは、「帰命」「慈悲」などが該当しますが、仏教や浄土真宗で大切にしているこうした言葉は、かつて、仏さまの教えが説かれた経典やそれを解釈した論書が中国にもたらされたとき、翻訳家たちが苦心して、その地域の人々がわかる言葉にして伝えられてきたものです。地域も言語も時代も異なるところに仏さまの教えがもたらされたとき、人々は真意を失わないように、あるときは音をそのまま残して訳し、あるときはその言葉が伝わるように解釈して伝えてきました。その積み重ねが浄土真宗のみ教えとして、私たちのもとへ届けられているのです。

今回のメッセージポスターは、「南無



「阿弥陀仏」の六字の意味を現代の人々に伝えようという内容です。この六字は、七高僧のひとりである善導大師や宗祖親鸞聖人、本願寺第8代蓮如上人などが、それぞれの時代や伝える相手に応じて、解釈されてきた歴史があります。私たちに、そのみ教えを聞き承けて、現代の人々にそのお心を伝えていく責務があります。先人たちがご

真宗の教えを聞いていく方々にいかに届けることができるのかを常に念頭に置き、メッセージポスターをきっかけとして、さまざまな取り組みを進めていかなければなりません。

苦心されて伝えてこられた内容を、今の人々に伝える工夫が求められています。メッセージポスター一つでその役割を果たすことは到底できません。その思いやお心を、これから仏教や浄土

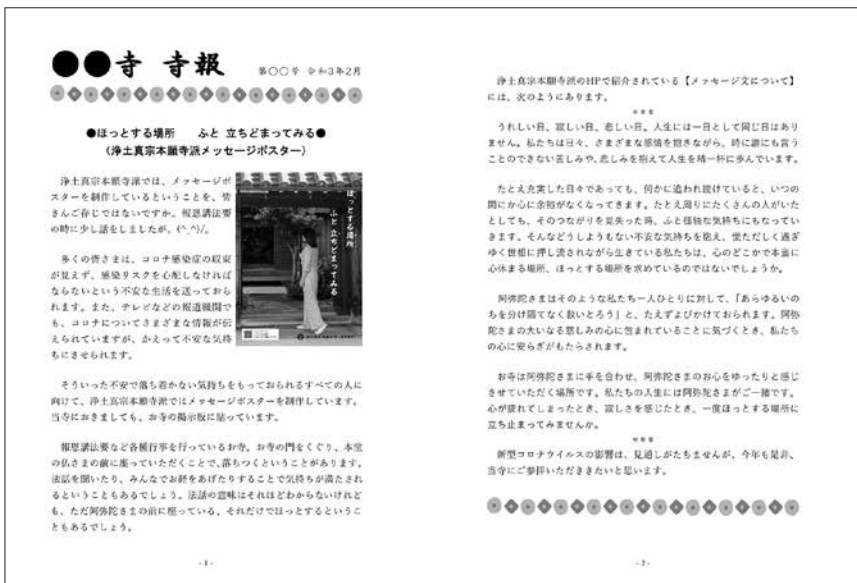
### メッセージポスターの活用について

第7回・第8回のアンケートからは、特に、言葉の意味が伝わってない場合に響かないこと、そして年代別で受け取り方に顕著な差があることがうかがえました。仏教や浄土真宗との関わりがど

\* 真宗教団連合HP 参照。  
<https://www.shin.gr.jp/activity/event/800/index.html#report>

けあるのかは人それぞれですが、メッセージポスターは、紙媒体とともにダウンロード用データとしても発信しており、私たちの命や生活を支えてくださる方々や、苦しみ悩む全ての人々に届けた

いという思いのもとに制作されてきました。これを入り口として、浄土真宗のみ教えや、お寺に関心を抱いていただく可能性を見出していくことが、混迷の時代にあつて人々の心のよりどころを創出し



メッセージポスターを用いた寺報（サンプル）

ていくことにつながっていきます。

結果として出てきた数字を真摯に受け止め、門信徒の方ももちろん、初縁の方にも、「浄土真宗」や「西本願寺」はどんなところなのか、どんなことを伝えようとしているのかが端的にわかるよう、さまざまな取り組みを通してアプローチしていく必要があります。一連の「新型コロナウイルスの感染拡大に伴うすべての人へのメッセージポスター」を通して伝えることができた内容や方法、あるいは課題や改善点を見つめ直し、今後の伝道教化に生かしていくことが求められます。

これまでのメッセージポスターの写真や文言は、みなさまの創意工夫によってさまざまな形で活用されてきました。これまでの報告では、掲示板に貼り出される以外にも、文言の一部が懸垂幕や掲示板に書き出された例や、法事・法要や研修会などでポスターを活用してご法義を伝えていく試みなどを紹介してきました。その他にも、法要の案内状や寺報な

どにメッセージポスターやその解説文を活用されていることもお聞きしています。

阿弥陀さまは、「十方衆生」一人ひとりを哀れんで「必ず救う」との願いをたてられました。そしてお釈迦さまは「生きとし生けるものは 安穩であれ 幸せきとし生けるものは 安穩であれ 幸せであれ」と願われました。そうしたお心

を聞かせていただく私たちとしては、今もなお新型コロナウイルスの感染拡大が続く中で病や不安に直面し、それぞれの悩みや苦しみを抱えながら生きている一人ひとりに、浄土真宗のみ教えが伝わり、少しでも人々の心が和らいでいくよう、できるところから、伝道教化にとても参りたいと思います。

「新型コロナウイルスの感染拡大に伴うすべての人へのメッセージポスター」は、『本願寺新報』および浄土真宗本願寺派 HP「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する対応について」(<https://www.hongwanji.or.jp/news/cat5/000816.html>)に掲載しています。ポスターのQRコードから、データのダウンロードおよびメッセージ文の詳細を確認できますので、併せてご活用ください。



ポスターのデータと  
メッセージの詳細は  
ホームページに掲載しています。

浄土真宗本願寺派 HP  
「新型コロナウイルスの感染拡大に伴うすべての人へのメッセージポスター」QRコード

※ QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です